各分科会において議論された奄美市の魅力・良さ

※分科会において多く出された意見を事務局において文章化

（１）しまの「次世代づくり」検討分科会

奄美市で子育てをしていると「１人じゃないんだ」と思えることがあります。地域やご近所、まちをあるけば声をかけてくれる知り合いに多く会います。それに、ちょうどいいくらいの都会感がある名瀬と、シマらしさを満喫できる住用・笠利、まちとしての幅の広さもいいところ。実際、お金をかけずに自然を楽しめるし、こどものためのイベントも多い！子ども１人ひとりを認めてくれる、こどもにやさしいまちです。

（２）しまの「人生１００年」検討分科会

奄美市は全国の離島と比べたら比較的医療・介護体制が充実しているので安心して暮らせます。また、歳を重ねてもやりたいこと、やるべきことがたくさんあって忙しい。地域・集落の行事には参加し続けたいですし、同窓生やスポーツ仲間などとの“交流”が続けて、多くの“居場所”をつくることもできます。ゆったりした時間の中で、シンプルだけど手の込んだシマ料理を食べられることもいいところです。地域を守る一員として、また、子や孫が帰ってこられる場所を守るという“役割”を持ち続けられることは人生の“喜び”でもあります。

（３）しまの「幸福度」向上分科会

奄美市での暮らしは離島にしては便利です。ほかの島にはないものがだいたいあります。なにより「ひとの繋がり」があります。お互いに人付き合いを大切に思い、すぐに集まってくれる仲間がいます。朝夕のすれ違いざま、あいさつしてくれる子どもたち。ちょっと足をのばせば、世界自然遺産に選ばれた自然もあるけど、ふとした日常で見られる夕日や星空。何気ない日常でも感動を探すことができます。あと、夏は都会より涼しいです。

（４）しまの「魅力」向上分科会

八月踊りなどの集落行事、シマ唄などの文化など。もともと住んでいる人と移住してきた人、両方が魅力だと思える誇れる資源が多くあります。南国のイメージがあると思いますが、多分、夏は都会より過ごしやすく、春には花粉が飛びません。ダイビングやパラグライダーにとってはベストポイントもあり、観光でも暮らしでも以外な都会ぶりと自然の近さが魅力でもあります。まだまだ新たな魅力を引き出す伸びしろが多くあるんです。まあ一言でいえば「なんかちょうどいいまち」奄美市です。

（５）しまの「宝」継承分科会

この島がこの位置にあるからこそもたらされた慈雨とそれに育まれた山・海。航海交易の拠点としての歴史上の一面など、私たちが暮らす奄美大島は、その存在そのものが誇りです。その島で営まれてきた暮らし、育まれてきた文化。八月踊りやシマ唄などの文化はもちろんですが、互いに声をかけあう関係性、都会から帰ってきて気付いた子ども達の明るさ、敬老会などでの全力の余興。「人と自然が文化でつながる」、ナチュラルSDGｓの生活を続ける奄美市です。

各分科会において議論された奄美市の課題・問題

※分科会において多く出された意見を事務局において文章化

（１）しまの「次世代づくり」検討分科会

奄美市では子どもを育てていく上で耳鼻科、産婦人科、小児科など市民に身近なお医者さんが少なくなってきたことに不安を感じることがありますが、奄美市には医療を扱う部署がなくどこに相談すべきかもわかりません。また、公園に駐車場がなかったり、雨の日の遊ぶ場所がなく困ることもあります。また、都会に比べると習い事が少なく、情報も口コミ頼りになることも。それに、住む家が少なく、家賃が高いなどの課題もあります。加えて、子どもを産み育てていくために前提となる所得が低いという課題もあります。子育て世代のライフスタイルスタイルに合わせたサポート体制や待機児童解消など保育環境の整備する必要もあります。

（２）しまの「人生１００年」検討分科会

奄美市では、全国と比べ、平均寿命が短く、早世率が高いなどの課題があります。また、進学を機に都会での生活基盤を整える島人も多く、高齢者の親を気にしても気軽に帰省できない方もいたり、困った時に助け合ってきた家族・親戚・地域の以前と比べ希薄になり助け合える関係が薄れつつもあります。特に市街地区においては、地域活動のリーダーの担い手不足や地域活動などが減ってきているのも課題です。市民、一人ひとりが主役となり元気でイキイキと歳を重ねながら、幾つになってもやりたいことができるように移動手段を確保し、外出機会を増やすことや地域の中で人と人のつながりをもちながら要介護状態を予防するフレイル対策に取り組む必要があります。加えて、防災面においては地域や行政と一緒に台風火事や地震・津波などの災害などに備えるためにどの家庭に要介護者などがいるかを把握することや避難所などのバリアフリー化の課題もあります。

（３）しまの「幸福度」向上分科会

奄美市では物価、家賃が高い他に、本土と比べると所得水準よりも低かったり、若者へ仕事の情報を上手く発信できていないなどしまで働らく魅力が低い課題があります。しまのモノを外に売る仕組みや付加価値化の商品開発の推進することで売上げをあげていくこと、そして、様々な世代が起業などにチャレンジできる環境整備が必要であります。また、離島なので交通費がかかったり、車がないと生活ができないという課題や伝統文化である八月踊りなどにふれあう機会も減ってきているという課題もあります。さらに、行政と民間のコミュニケーションがまだまだ足りないため、対話の機会を増やしたり、奄美市として目指すべき方向性をよりわかりやすく市民に伝える方法が必要であります。あと、変化を好まない人が多いというしまならではの課題もあります。

（４）しまの「魅力」向上分科会

奄美市では人を移住させるために解決すべき課題として移住したい人のサポート不足やそもそも貸りられる住まいが少ないなどの課題があります。また、台風が来ると１週間以上フェリーが欠航し、お店から品物がなくなることもあります。それに子どもを

育てていく上で耳鼻科など市民に身近なお医者さんが少なくなってきたことや雨の日の遊ぶ場所の不足していることも課題であります。また、人を呼び込むために観光客の受入体制不足や情報発信についてのやり方、公共交通機関も含め、キャッシュレス対応をより広げるべきといった課題もあります。

（５）しまの「宝」継承分科会

奄美市では昔から地域全体でさばくりをする機会(共同作業や地域行事)があり、そこでは世代を超えた直接的なつながりやそれぞれの役割がありました。しかし、現代においてそのような機会が減少しており世代を超えたつながりが薄れてきています。それに、行事の意味やシマ唄の歌詞の背景や想いまで理解している人も少なくなることで、行事や食文化、シマ唄が形だけでなく、その意味や″心″も含めて残していくことができるか心配されます。また、シマユムタをしゃべれる人も減ってきています。しゃべれたとしてもイントネーションが違ったりします。